# 博物館ボランティアの考え方

布谷知夫
三重県立博物館

## 博物館でのボランティア

- 初期のボランティア活動
  昭和11年　日本民芸館
  昭和36年　記念艦三笠

・本格的な展示室ボランティア
　1970年代後半からの美術館展示解説ボランティア(ｷﾞｬﾗﾘｰﾄｰｸ)
　　北九州市立美、静岡県美
・1990年代ころから各地で定着

2

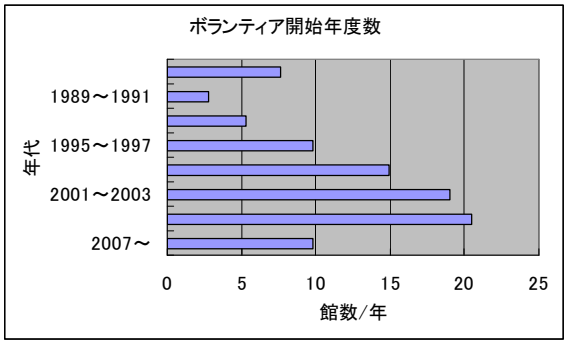
## ボランティア導入の現状

登録制度がある博物館数

- 2002年度　312/1111 (28%)
- 2005年度　416/1196 (35%)
- 2008年度　462/1248 (37%)

文部科学省　社会調査結果から
基礎数は登録及び相当に限る

3




4

- 博物館協会が認識していたボランティア活動
  学芸業務補助
  来館者接遇補助
  付帯活動補助（教育活動補助）
  案内等
  環境整備
  事務・業務補助

平成20年　日本博物館協会

5

- 博物館ボランティアの定義
- 「展示資料の解説、会場整理への協力、展示資料の収集・制作等における学芸員への協力などの無償の奉仕活動をいう」

平成20年　日本博物館協会

6

## ボランティアの学びとは

- 本来のボランティア
  志願者　志願兵
- 日本的ボランティアの3要素
  「無償、滅私奉公、おせっかい」
- 現代的なボランティアの3要素
  「自主性、自己学習、制度変革」

（大阪ボランティア協会による）

博物館において、この3要素は成立するか？

7

- 博物館ボランティアの特徴は「自己学習」に特化していることだと思う
  自己実現をめざした自己学習、個の確立

・ボランティアをしている人たちの活動内容
だから、ボランティアは教育学習担当者の仕事

- 「自主性」「制度の変革」はどうなのだろう

8

## 博物館におけるボランティアの位置づけとは

- 改めてボランティアとは何をする人のことだろうか
- ボランティア活動をしている人は地域社会の中にたくさんいる、博物館ボランティアだけの特徴とは？

9

## 博物館におけるボランティアの位置づけとは

- 改めてボランティアとは何をする人のことだろうか
- ボランティア活動をしている人は地域社会の中にたくさんいる、博物館ボランティアだけの特徴とは？
- 「博物館利用者は全てボランティア」

10

- 施設従属型のボランティア
  博物館の補助活動
- 施設活動型のボランティア
  博物館を使った独自の組織活動
- 自主活動型のボランティア
  場として博物館を活用した独自活動

11

- ボランティアのいくつかの例
- 共通していることは、博物館の場を使った自らの学び
- ボランティアと他の博物館利用者グループとの関係は？

12

## 「はしかけ」制度

- 最初はボランティアの是非から議論を始めた
- 自主的、自己学習的な活動をする団体として「はしかけ」制度を導入
- 博物館という場を使って、自分たちがしたい活動ができるように博物館学芸員が応援する
- 年3回の登録講座を一度は受ける（およそ3時間）
- 毎年、年間460円の保険料を払うことで、更新
- 部屋、パソコン、文具などを自由に使用できる
- 利用者であるため、それ以外の便宜はない

13

## 現在のはしかけグループ

- ザ！ディスカバはしかけ
- 温故写新
- たんさいぼうの会
- 田んぼの生き物調査グループ
- びわたん
- 湖（こ）をつなぐ会
- 植物観察の会
- うおの会
- 近江はたおり探検隊
- ほねほねくらぶ
- 里山の会
- 淡海湧き水の会
- 近江昔くらし倶楽部
- 烏丸通信局
- 緑の薬箱

299人
15グループ

14

- 博物館から地域社会へ
  博物館での学習活動は、地域について学び地域活動をすることに集約していく
- ボランティア活動は博物館と地域とを結び、地域社会を活性化していくことにつながっていく

15